

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会

第2回 ワーキンググループ会合 議事要旨

- 1 日時 平成19年5月30日(木)14:00～17:00
- 2 場所 ニュー新橋ビル B2F ニュー新ホール
- 3 議題 (1)実証対象技術の承認について
(2)拡大ワーキンググループの開催内容について
(3)実証対象技術の分類について
(4)その他
- 4 出席検討員 相野谷誠志、岡城孝雄、柏原一正、桜井敏郎、鈴木富雄、
船水尚行、森武昭(座長)、吉田孝男、
- 5 配布資料 資料1-1 実証申請書(実証機関:秩父市)(非公開)
資料1-2 " (実証機関:沖縄県環境整備協会)(非公開)
資料1-3 " (実証機関:(財)日本環境衛生センター)(非公開)
資料1-4 " (実証機関:(財)日本環境整備教育センター)(非公開)
資料2 「拡大ワーキンググループ」と「新分類案」の基本的考えについて(公開)
- 6 議事 議事は公開で行われた。

(1)実証対象技術の承認について(非公開)

1. 実証機関:秩父市について
 2. 実証機関:(社)沖縄県環境整備協会について
 3. 実証機関:(財)日本環境衛生センターについて
 4. 実証機関:(財)日本環境整備教育センターについて
- 検討員より、他の方式も含め、処理性能の基準値に関する検討の必要性は、実証試験を重ねてきたことによって明確になった課題であるため、今後、水質の基準を整理することが望ましいとの意見が出された。
 - 検討員より、今後、申請内容についてより審議しやすくできるよう、申請様式のあり方を検討する必要があることの指摘があり、対応することが確認された。
 - 本WGでの指摘事項を踏まえ、各実証機関は実証申請者に対して申請書類を補足・修正してもらおうよう依頼することとし、技術を実証することの承認については座長に一任することが確認された。

(2) 拡大ワーキンググループの開催内容について 及び (3) 実証対象技術の分類について

資料2に基づき、説明があった。

1. 実証対象技術の分類について

- ・ 検討員より、技術分類についての目的を明確にして検討することが必要であるという意見が出され、設置者が選択肢として利用することも考慮する必要があると指摘された。
- ・ 検討員より、学術的な分類でなく、ユーザー視点からの機能比較(メンテナンス性や処理能力、設置条件等)となるような資料が作成されると効果的であるとの意見が出された。
- ・ 環境省より、すでに実証された技術との整合性も配慮する必要があるとの意見が出された。
- ・ 検討員より、装置の汎用性やカスタマイズの可能性等については、試験結果報告書概要版の申請技術 PR 欄に示し、項目の加筆・修正についても検討することが望ましいとの意見が出された。
 - 以上の内容を踏まえ、技術の分類およびユーザーに提供する情報について再検討することが確認された。

2. 拡大ワーキンググループの開催内容について

- ・ 検討員より、事業化に向けてシナリオを再構築する必要があるとの意見が出された。
- ・ 検討員より、トイレ設置者にとっての問題解決へ向けた検討材料の提供、実証申請者にとっての営業的なインセンティブなど、参加者へのメリットを明確にし、それぞれの立場から意見・議論が出しやすいよう工夫することが必要であるとの意見が出された。
- ・ 検討員より、開催の時間は半日程度が望ましいとの意見が出された。
- ・ 検討員より、フリートーク形式は非常によい意見が出る場合もあるが、結論が出ないことも懸念されるため、参加者の意見を事前に集約し、それに対して議論を行うことができるよう準備することが望ましいとの意見が出された。
- ・ 検討員より、第1回山岳トイレシンポジウムは、山岳トイレ問題の意識の統一に大いに役に立ったと考えられるため、同様の効果を挙げられるような会を期待したいとの意見が出された。
- ・ 検討員より、シンポジウムを行い、そこでの課題をもとに、拡大 WG のような機会を設ける二段構えが望ましいとの意見が出された。
- ・ 検討員より、トイレ技術を選択するための手法等を学ぶ機会になることが望ましいとの意見が出された。
 - シンポジウムと拡大 WG の趣旨を明確にし、来年度の事業化に向けたシナリオ案を作成することとした。

(4) その他

- ・ 事務局より、今年度は実証するトイレにノボリ旗を設置し、トイレ利用を促すための PR を行うことを報告した。